

# マンガでわかる 唐松荘



マンガ「なあ。どうすりゃええ？」は、愛誠会の事業所で起こっている日常の出来事をピックアップしたものです。



## 愛誠会 × 松田シロ コラボレーション作品

### 松田シロ氏 プロフィール

岡山県生まれ。漫画家。2000年『YOUNG YOU』（集英社：現在休刊）にてデビュー。以後、主に地元岡山弁で展開される漫画の他、イラストなどの制作、県北を中心に個展を開催するなど、ほそぼそと活動を続けている。

事務所より 『只今、新人研修中!』

START







看護師  
藤井さつき



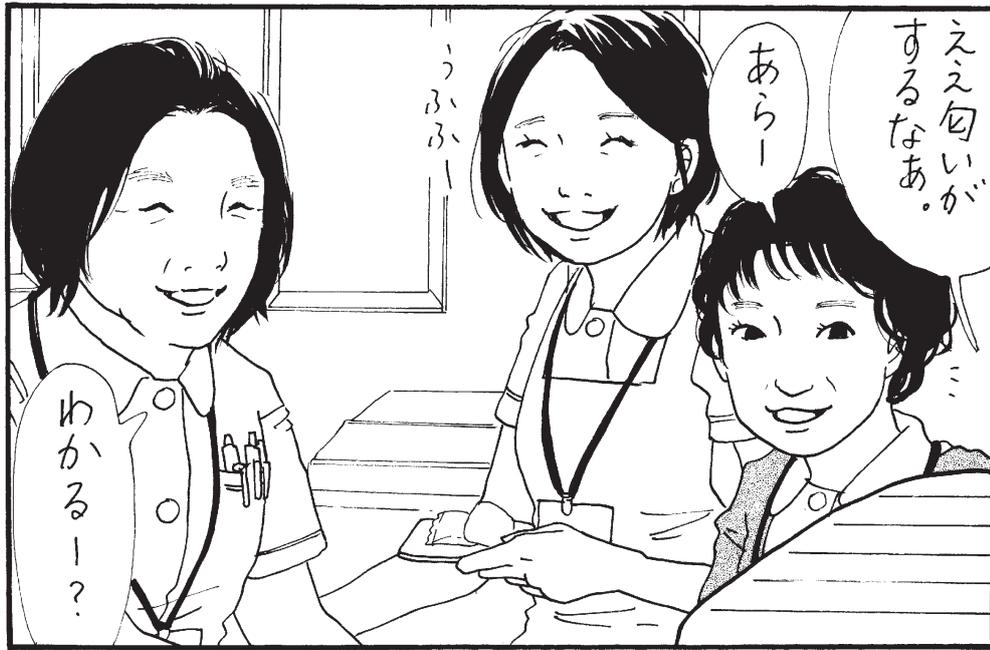
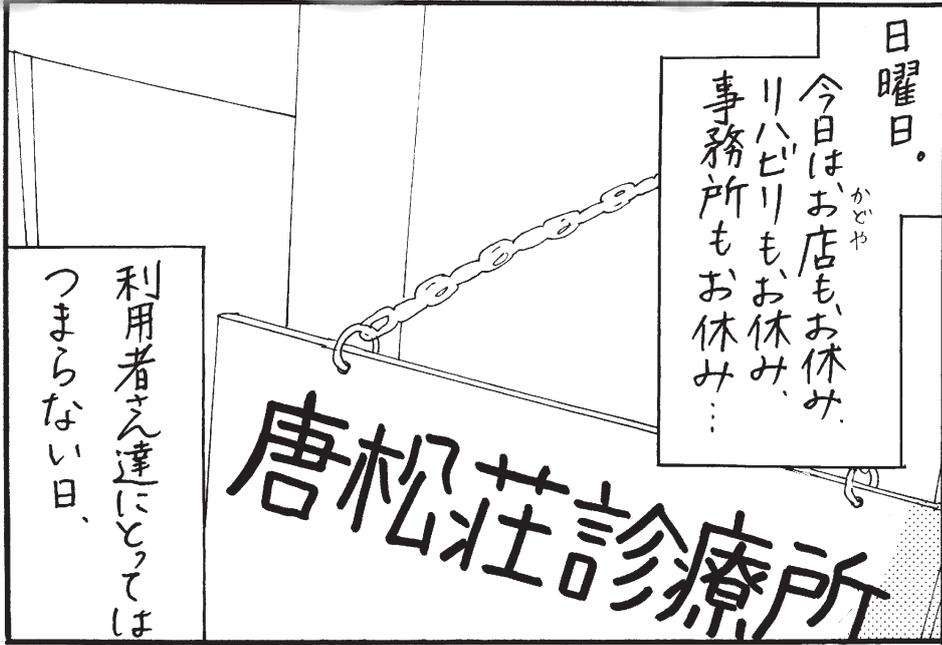
看護師  
柿原 由美

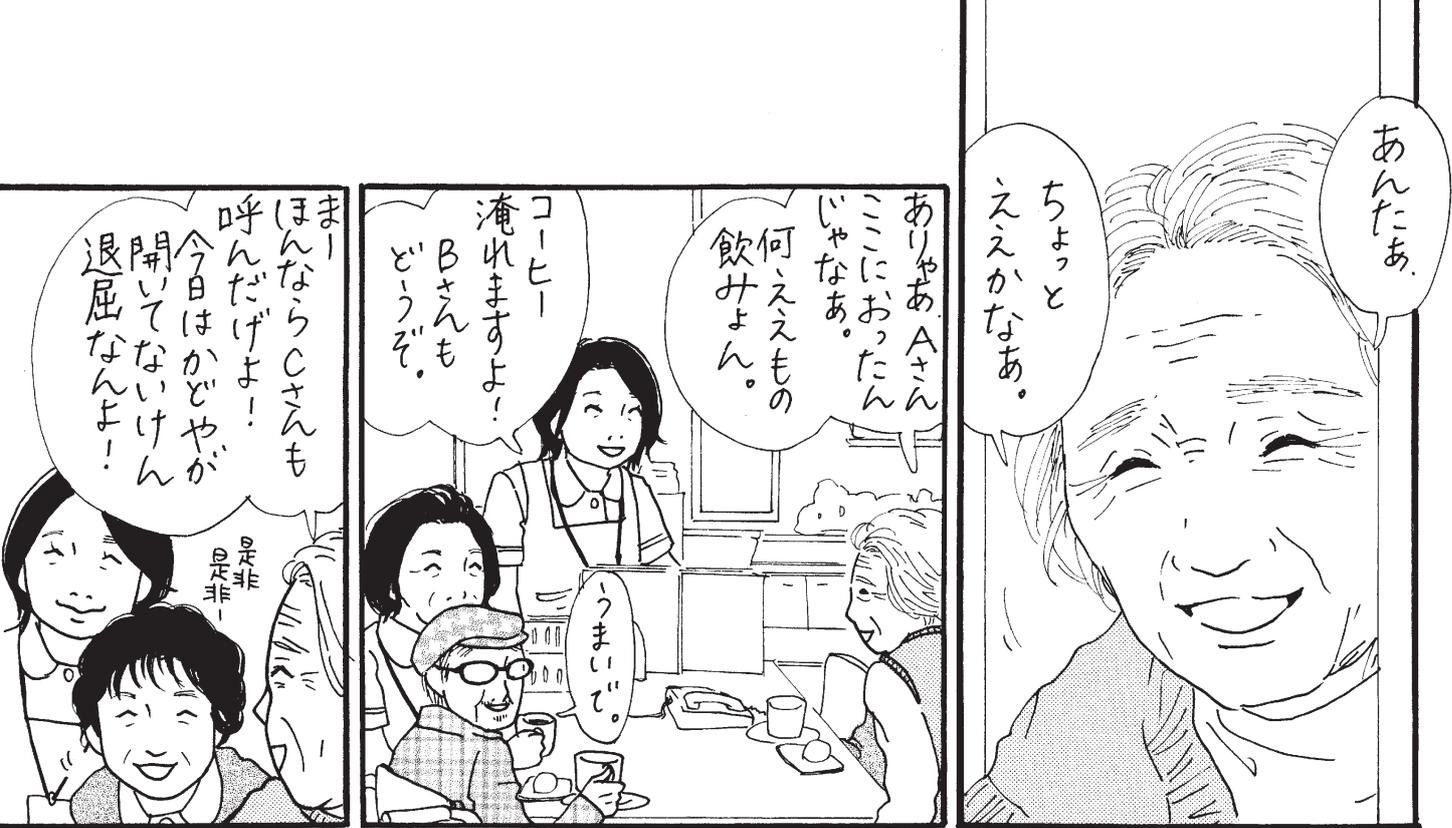


看護室長  
大森 薫

医務室より

# 唐松荘の日曜日





あんだあ

ちよっと  
ええかなあ

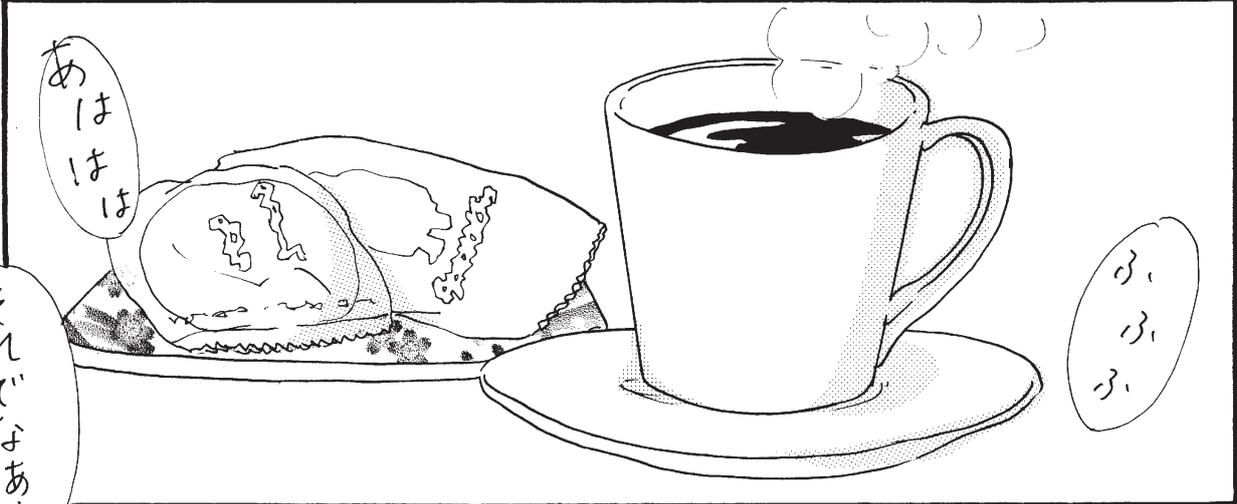
ありやあ Aさん  
ここにおったん  
いやなあ。  
何ええもの  
飲みよん。

コーヒー  
淹れますよ！  
Bさんも  
どうぞ。

まー  
ほんなら Cさんも  
呼んだげよ！  
今日はかどやが  
開いてないけん  
退屈なんよ！

是非  
是非

うまいぞ。



あははは

ふふふ

それでなあ...



こうして日曜日  
医務室は  
サロンになり

おかわり  
ありますよー

これは  
こうして...

ベテラン婦人会の面々が  
看護師に漬け物の  
つけ方を伝授する。  
料理教室にも  
なるのです。

もろ  
おうかい

へー



介護職員  
棟長 俊子



介護係長・ケアリーダー  
高橋 宏美

ナくら通りより  
『伝えるぬくもり』



Wッーん!

その頃のお話です。

認知症の発症により  
炊事に不安が出始め  
こちらに転居して  
こられました。

新潟生まれのWさん。  
林業をされてた主人と  
全国をあちこち回られ  
ご主人亡き後はひとり  
頑張ってたんですが



どれに  
しますか?

なんでも  
あるなま



まあ!  
そんな便利な店が  
あるんじゃないか!

なんと!  
ツケで  
買っつから  
いらないん  
ですよ!



買物?  
ええけど、私  
お金持とらんよ。

午後のお茶口を  
買いに、かどやまで  
一緒に行ってくれま  
せんか?



ええよ。  
もう  
夕方かな。

Wさん、洗濯物  
取り込んだので  
一緒に畳みま  
せんか?

一日早い  
ですわー



そう?

わー  
きれい!  
やっぱり  
お願いして  
よかった!



ええの?  
私でええの?  
どんなことになるか  
わからんよ。

大丈夫ですよ!  
一緒にやりましょう!

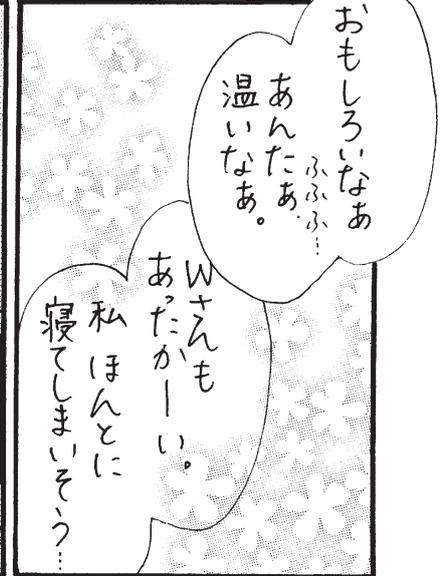
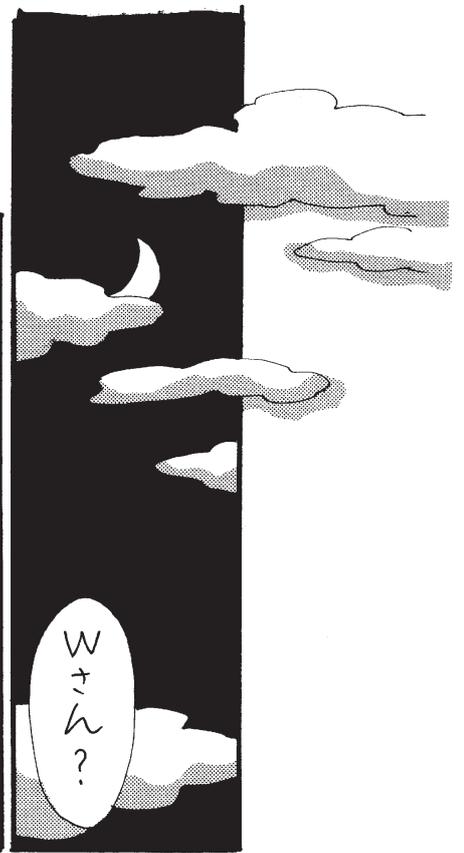
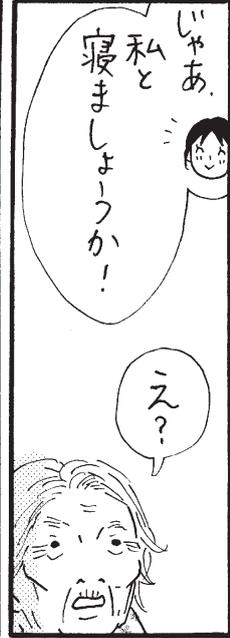
Wさん、  
お昼のお魚  
お皿に盛り付けて  
くれませんか?



介護職員  
杉野 翔一



介護福祉士  
土井 白子





介護係長・ケアリーダー  
山内 典子



介護課主任・介護支援専門員  
名越 夕子

つばき通りより  
『ビデオレター』



…という状況で、  
外出は難しいという  
担当医からの意見が  
上がっています。

夏頃から食欲が落ち、  
それに伴って、体力も  
更に低下してしまいました。

普段から酸素が  
手放せないYさん。  
稲の成長が気掛かりで  
秋までには自宅へ  
帰りたいという強い  
希望がありました。



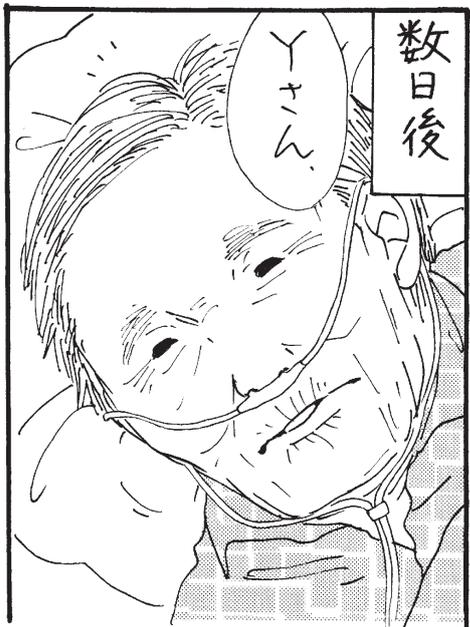
うーん…



医師の見立てでは  
今は車に30分  
乗ること自体  
よくないと言われて  
いますからねえ…

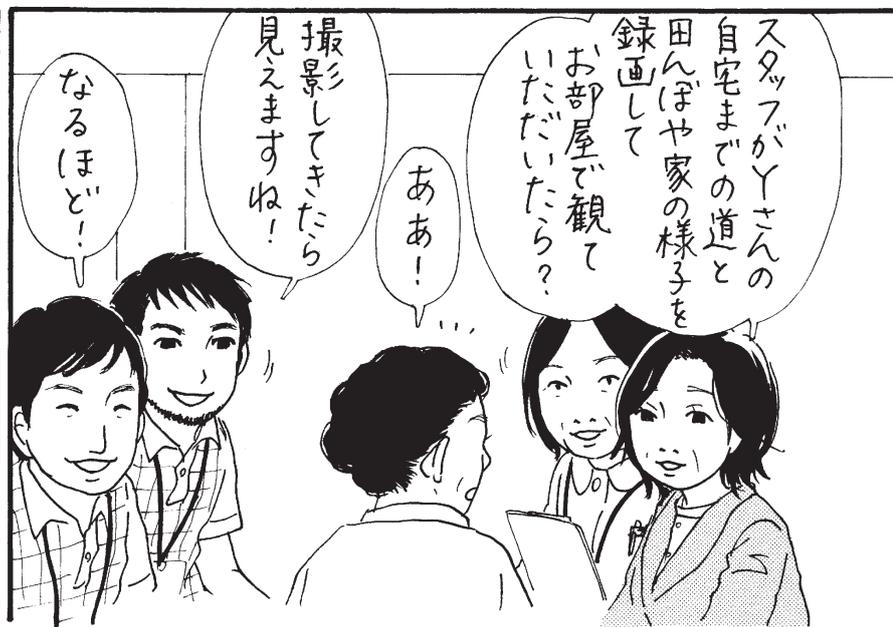
でもそれを聞いて  
本人はますます  
元気をなくされて…  
どうしたらよいか  
皆さんアドバイスを  
よろしくお願  
いいたします。

どうしましょう…



Yさん

数日後



なるほど！

撮影してきたら  
見えますね！

ああ！

スタッフがYさんの  
自宅までの道と  
田んぼや家の様子を  
録画して  
お部屋で観て  
いただいたら？



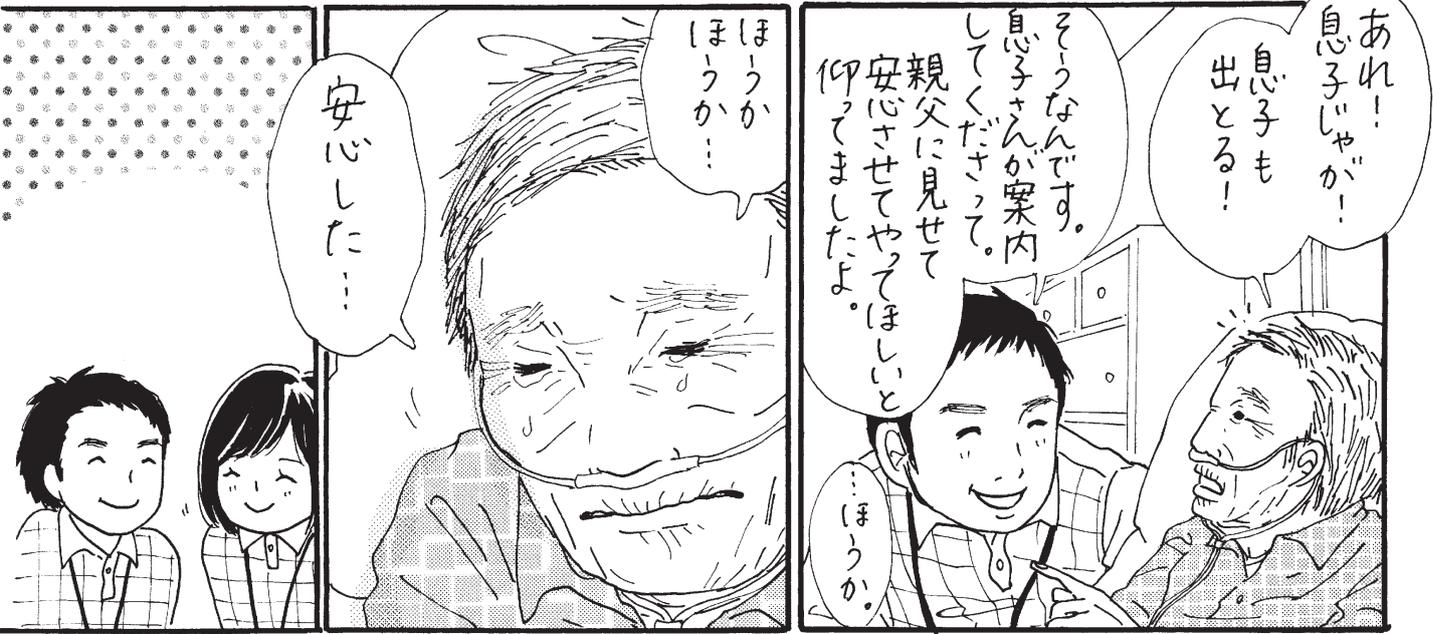
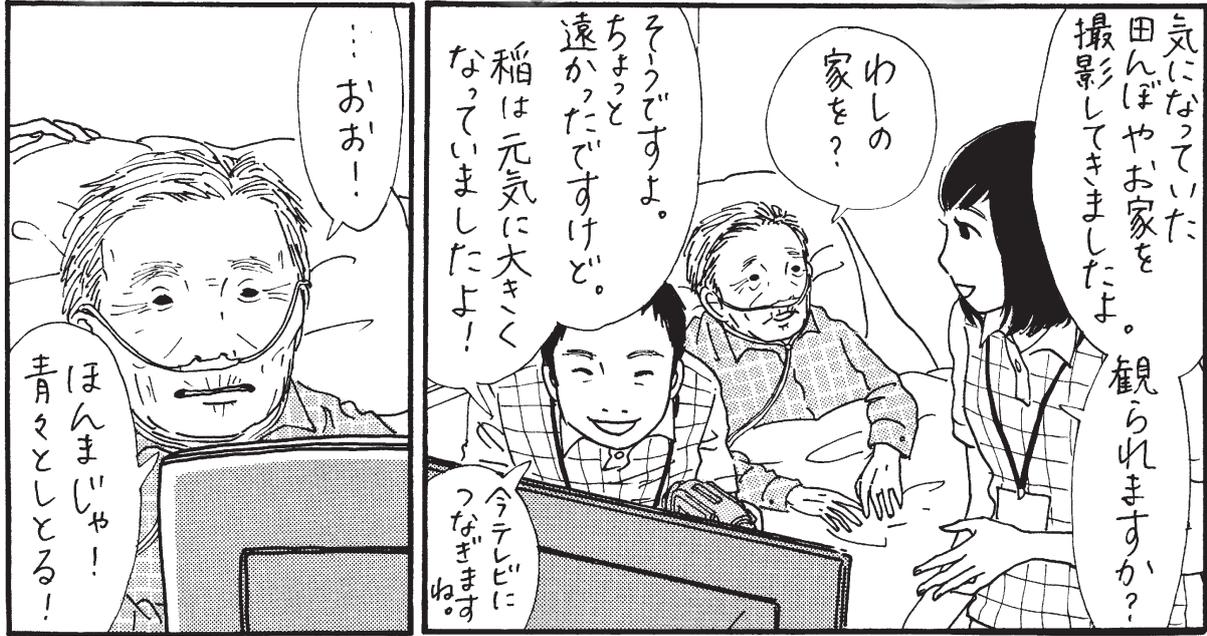
介護職員  
春木 光児



介護職員  
宮田 泰弘



介護士  
安藤 健吾





介護士  
杉本 康井



介護課長・介護支援専門員  
井 明子

「お父さんはいつだって  
もみじ通りより」

夏に入所されたBさんは、  
家族思いで優しい。  
3人娘の父親です。



数年前、  
末の娘さんを亡くされた  
ショックから、  
認知症を発症。  
現在と過去を行ったり  
来たりの日々を  
送っておられます。

体力が低下した  
奥様では、夜間  
ふいに出掛けてしまう  
ことが多くなった。  
Bさんに付き添えず、  
入所を決められたの  
ですが、

家族としては  
お父さんを家から  
切り離すよううで  
忍びなく、  
つらい思いが  
募っていました。

そこで、  
県南にお住まいの  
娘さんが帰宅する  
際には、



金曜の夜から  
日曜の午後まで  
家で過ごすようう、  
送迎させていたたく  
ことを提案。

それから  
2ヶ月程経った  
ある日、  
お迎えに上がる  
時間を訊くため、  
Bさん宅に電話を  
掛けました。

あ、  
もしもし。

Bさんの  
お宅ですか？

はい。

Bです。

こえっ





はい。そうなんですけど。

Bさんですか…?

ホントに

失礼  
だけれど…

あ、あの…



はあ…  
そうですか



えっ？  
Bさん  
ですか!?

はあ。

あ、あの。  
お奥様は…

女房は今  
近所の人と  
車で買い物に  
出とります。



どう  
されました?

ん？  
ん？

えっと…



ほれ。  
上がりんせえ  
上がりんせえ

は。  
はあ…

Bさん…?



はいはい。

まあ上がって  
お茶でも飲んで  
いきんせえ!

えっ？



電話の後  
Bさん宅

こんちは

Bサーン  
お迎えに  
来ましたー



自宅での  
Bさんは

認知症など  
全く感じさせない

お茶は

苦う  
ないかいな

おいしい  
です…

一家の主  
なのでした。



栄養士  
田中 宏恵



主任管理栄養士  
相原 晴香

調理室より

# 笑顔も「馳走」



今日は  
ユニットの台所で  
利用者さんとスタッフで  
一緒にお昼ご飯を  
作って食べる  
「ユニットキッチン」の日。

利用者さんのリクエストで、  
もみじ通りはお好み焼き、  
つばき通りは天婦羅を  
作っています。



なんの迷いもない  
調味料の配分に  
スタッフは驚くばかり。

昔料理屋を  
していたMさんは  
味付け担当。

お砂糖は  
これぐらい。



ちらし寿司を作る  
さくら通りでは、  
持病のリウマチも  
なんのその。

人參  
切ったげるで！

と頼もしい  
Oさん。



Hさん  
きれいに焼け  
ましたねー！  
おいしそうで  
お腹空いて  
きました。

こりゃあもう  
焼けたかな？

いい  
おーい



一方、  
もみじ通りでは  
Hさんが慎重に  
お好み焼きを  
焼いています。

うーん  
もう少しかなあ

ウウウ



「馳走してくるんですか？」

「大好物なんですよ。」

「皆さんでどうぞ。」

「わあ、おいしそうなお寿司ですね。」

「Mさんは得意料理のお寿司を事務所へお裾分け。」



「あんなたちのも焼いたげるからなあ。温いうちに食べんせーよ。」

「はい、ありがとうございます。いただきます。いただきます。」



「こんなふうに。」

「あつあつ。」

「おいしー！」



「こちらも元気をいただきます。」

「Mさんの充実した満面の笑顔に。」



「上手かどうつか、わかりませんが、食べてみてください。」

「お言葉に甘えていただきます！」

「どうぞどうぞ。」



「絶品!! ちらし寿司!!」

「おなかも心も幸せいっぱいになるのです。」

「月に数回の「ユニットキッチン」でみんな。」

介護支援専門員  
藤原 厚志

居宅介護支援事業所より  
『ずっと我が家に居たい理由』  
わけ

頑固で涙もろい  
Nさんは74歳。  
奥様を七くされた  
10年前から  
ひとり暮らしです。

脳梗塞の再発で  
思うように動けなくなり。  
リハビリと生活支援のため  
デイサービスとヘルパーを利用  
することになりましたが……

その二週間後

デイサービスは  
時間が長いけえ  
もう行かんぞ！

風呂だまやあ行っても  
ええけど、あとは  
家におる方がええ！

愛犬 まろ

いやあ一日おきに  
ヘルパーさんに来て  
もらいますから。

また  
別の日には……

そうしてくれ！  
ありがたい！

Nさん  
家におりたい  
理由はこれ？  
ご飯やお酒の量が  
多いとヘルパーさん  
心配しとったよ！

酒のことは  
言うな！  
自分の金で  
買うとんじや！

こんな調子

ところが  
ある冬の日

Nさん!!

Nさん!!

うっ……

台所で倒れ  
顔などに大ケガ。  
救急搬送されて  
入院したのですが

Nさん!!

わかり  
ますか!?

しきりに  
帰宅を懇願

頼む！  
頼む  
帰らせてくれえ

頼む！  
頼む  
帰らせてくれえ



大丈夫じゃ!

病院に  
行きますか?

どこにも  
行かんぞ!!

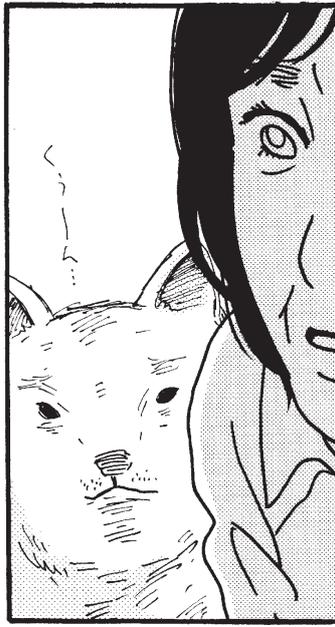


おーい!

Nヤん...  
大丈夫ですか!?

立てれん!

ひと月後  
ベッドに起き上がれても  
歩けないという状態で  
退院したのですか!



まろは  
どうするんじや



でも  
この状態じゃ...  
わしが  
おらんかったら



まろは



その後もNヤんは  
ヘルパーさんを  
利用しながら  
まろと仲良く  
暮らしています。

涙もろい  
ケアマネは  
もらい泣き



Nヤん  
なんであんなに  
泣くんたらー



病院には  
戻らんぞ!!  
お娘にやあ  
言うなよ!



室長・介護支援専門員  
宮田 真理子



介護係長・ケアリーダー  
大石 百合子

「グルーポホーム心より」

「<sup>ま</sup>ま 心の中の居場所には」



この施設で暮らして10年になるSさんはアルツハイマー型認知症の進行により言葉を失い。

家族の顔も記憶から消えてしまいそうなの日々を送っています。

一日目を家族との絆をしっかりと繋いだまま過ぎしてほしいと願うスタッフと。

恍惚の母に対し、「諦め」と強い思慕の間で揺れる「家族」。



最近は何も記憶が保てなくて自分はどうしたらいいのと常に不安でおられるようです。

一度家に帰ったお帰りに戻らな記憶にある風景と一致してひと時安心されるのではないかと思っています。

無理です。

もう娘の私のこともわからないです。

どうでしょう？

いつも何かを愛おしそりに触っておられますよ。言葉にならなくても愛情は変わっていきなと感します。



でも…母の家は前が急な高い石段です。

歩けない母をどうやって…

元気な頃は私が仕事をしていたので孫を心配して、私の家へいつも留守番に来てくれていたが…

それなら娘さんのお家へ行かせていただけませんか？

えっ？ どうですかね。

私の家？

え… ええ

いいですけど…



主任介護士  
土屋 由子

数日後、  
娘さん宅へ車で  
向かう途中

ああ…

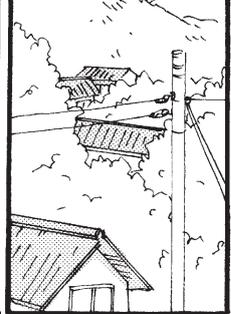
久しぶり  
じゃなあ…

えっ

わかりますか？

いつも通っていた  
道ですよ！

うれしいなあ…



お母さん…

こっち！

ハイ！

失礼  
します…

お母さん…

…母は

この風景を  
覚えていて  
くれたんですね。

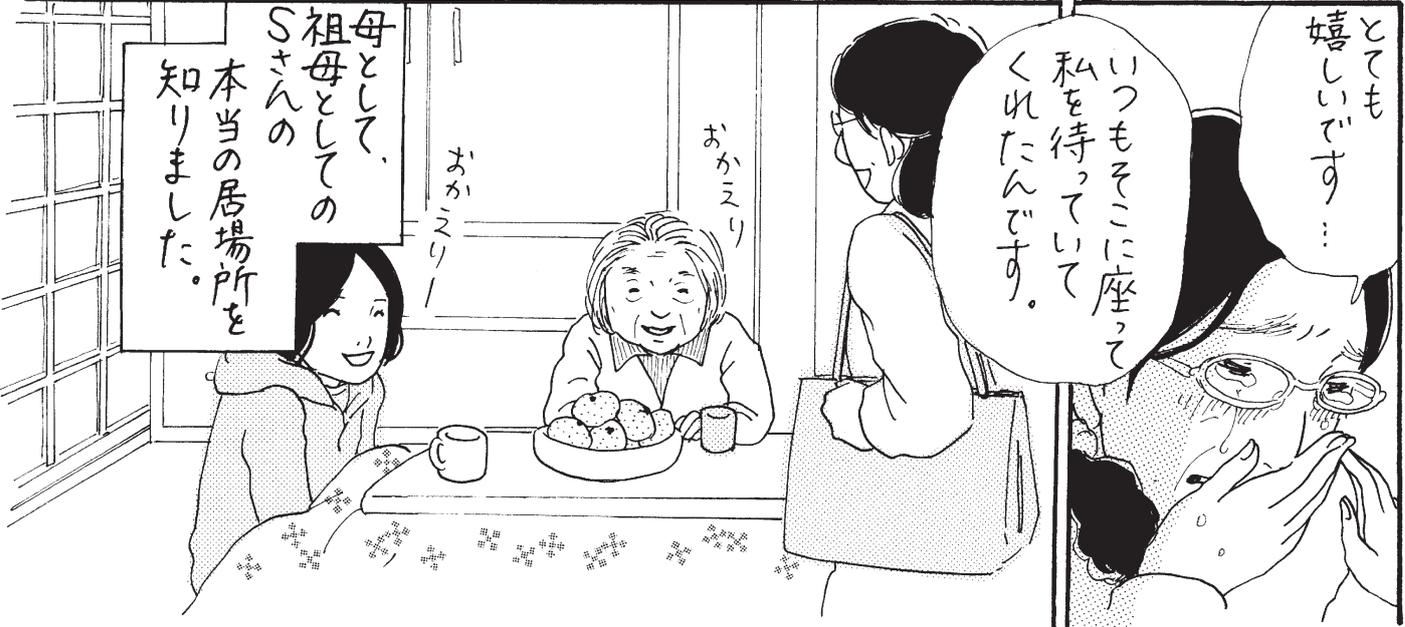
とても  
嬉しいです…

いつもそこに座って  
私を待っていて  
くれたんです。

おかえり

おかえり

祖母として、  
祖母としての  
Sさんの  
本当の居場所を  
知りました。





看護職員  
林 千恵



課長  
池田 敬三

デイサービスセンターより  
『あなたの笑顔をお迎えに』

80代後半の  
Fさんは、  
毎週水曜日に  
デイサービスセンターを  
利用される女性です。

おはよう  
ございます

Fさん  
お迎えに  
来ましたよー

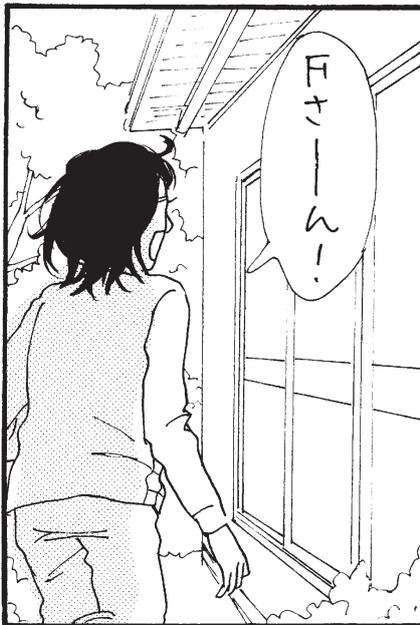


あれ？



Fさん！  
Fさん！

カチャ  
カチャ



Fさん！



Fさん！

カチャ

新聞



担当ケアマネから  
ご家族に連絡を  
取ってもらって  
家に入る許可を  
もらうから、  
ちよっと  
待って。はい！

ああ！  
Fさん！



休む時は連絡を  
くれる方だから  
何かおかしいなあ。

どうしましょう。



あ、課長！  
Fさんをお迎えに  
来たのですが、  
呼んでも返事が  
ありません。

電気は付いてますが  
玄関も鍵がかかって  
いるし、新聞も  
はさがたままです。

10分後

許可がもらえて  
鍵の置き場所を  
聞いたから

家の中を  
確認してみて!

はい!

Fさん!

Fさん!

Fさん!!

おおお...

どうしたん!

ああ...  
えかった!

昨日から  
嘔吐がついて  
動けんように  
なってる...

どうしようか  
思ってたんじゃ

まあ!

そりゃ  
大変じゃったなあ

病院に  
行かんとなえ!

自心子さんが  
来られるまで  
一緒におるから  
もう大丈夫ですよ。

ああ...  
ありがと  
ありがと...

幸いFさんは  
大事に至らず...

一週間後

おはよう  
ございまーす!

Fさん  
お迎えに  
来ましたよー

はい  
今  
出ますよー

いつもの  
Fさんの笑顔が  
ありました。



ヘルパー  
関 弓華



ヘルパー  
久重 典子



主任ヘルパー  
伊藤 ちづる

# ホームヘルプステーションより 「願いの灯」



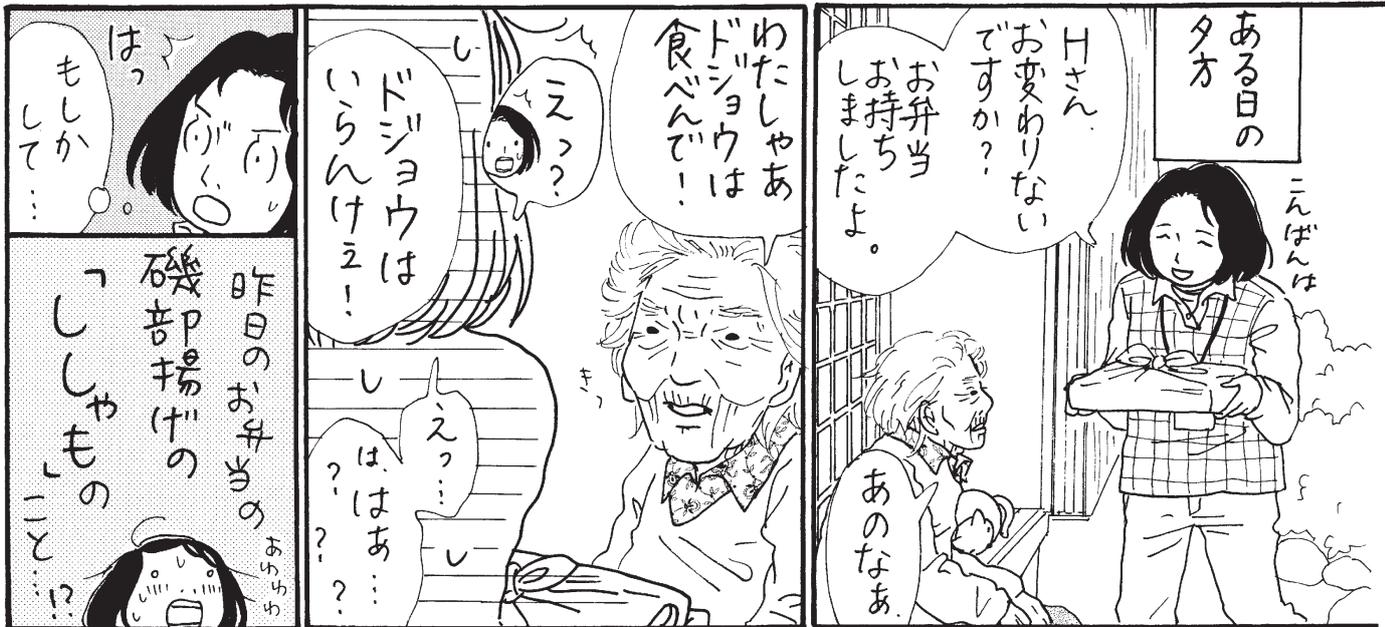
Hさんは  
大正生まれの101歳。

満州から引き揚げて  
この地に落ち着き、  
60歳で最愛の主人を  
亡くされて以来、ずっと  
ひとり暮らしです。

お子さんのいない  
Hさんは、毎日  
午前のヘルパー訪問と  
施設からの夕食弁当の  
配達を利用しながら  
悠々と過ごされています。

はまー  
大きゅう  
なれー

※腹心の友  
野良猫の  
旦那さん



ある日の  
夕方

Hさん  
お変わりない  
ですか？

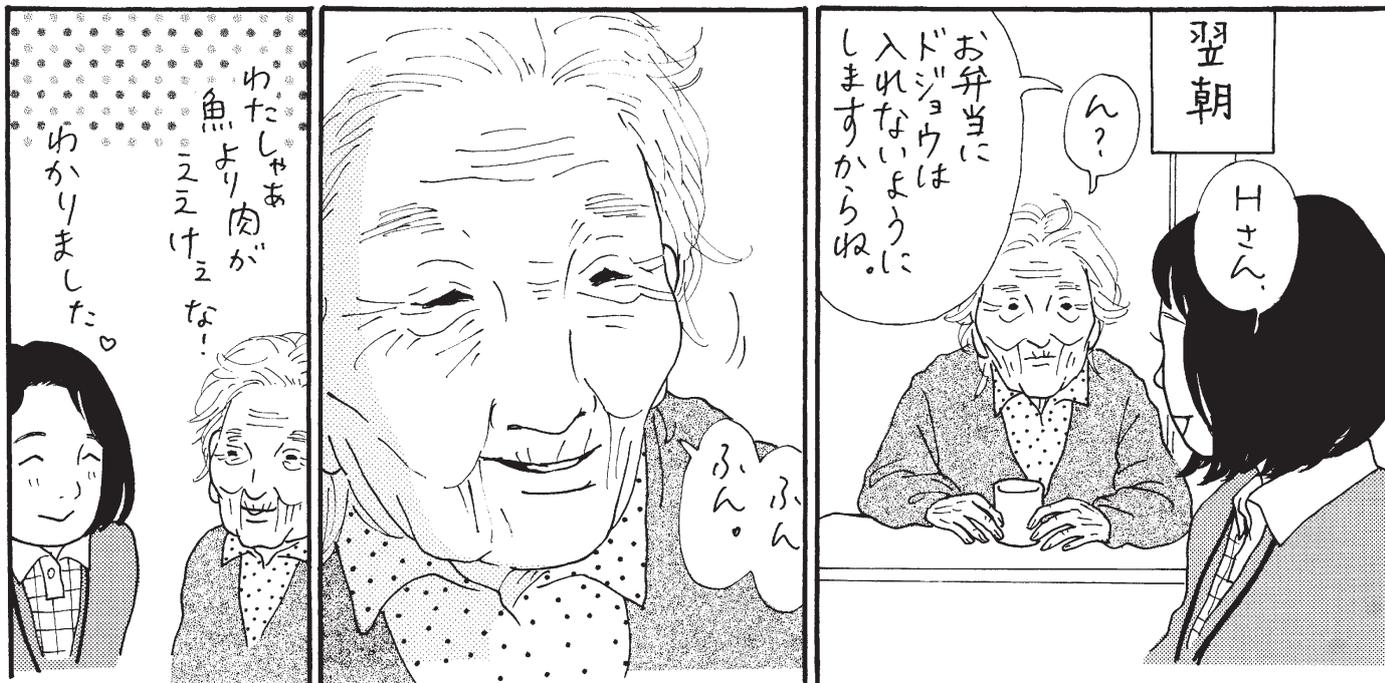
お弁当  
お持ち  
しましたよ。

わたしやあ  
ドジョウは  
食べんで！

えっ？  
ドジョウは  
いらんけえ！

はっ  
もしか  
して…

昨日のお弁当の  
磯部揚げの  
ししもの  
こと…！



翌朝

Hさん

お弁当に  
ドジョウは  
入れないよう  
に  
しますから  
ね。

ふん  
ふん

わたしやあ  
魚より肉が  
ええけえな！  
わかりました♡



104歳まで  
頑張らんとあぁ!  
ははは

楽しみですねー



まあ、  
桃栗3年って  
言うから...

ほんなら3年  
待てばええな。



ある日の  
午前中

Hiさん、  
卵とニラの雑炊  
できましたよ。

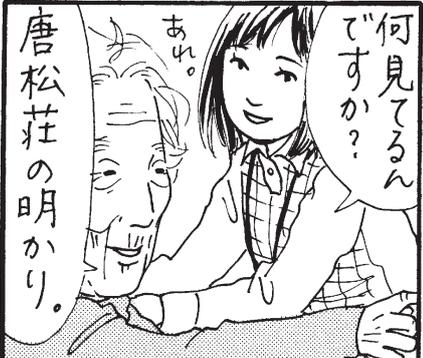
あのなあ、

農協に桃の苗を  
注文したんよ。

へえ!  
何年待てば  
食べれる?



何があっても  
誰か来て  
くれるからなあ。



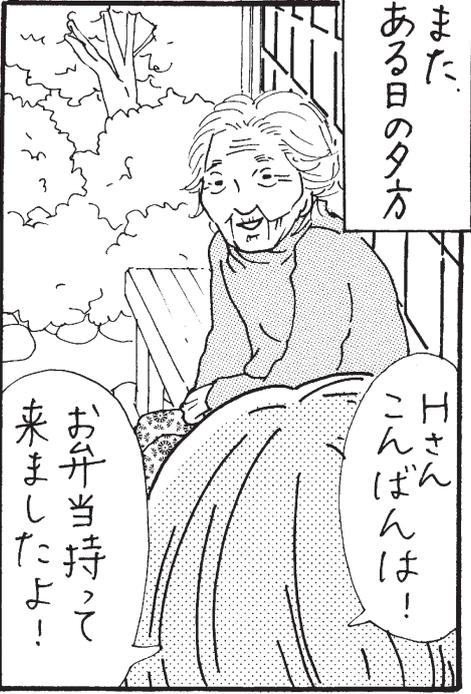
あれ。  
唐松荘の明かり。

何見てるん  
ですか?



毎日見ると  
安心するんよ。

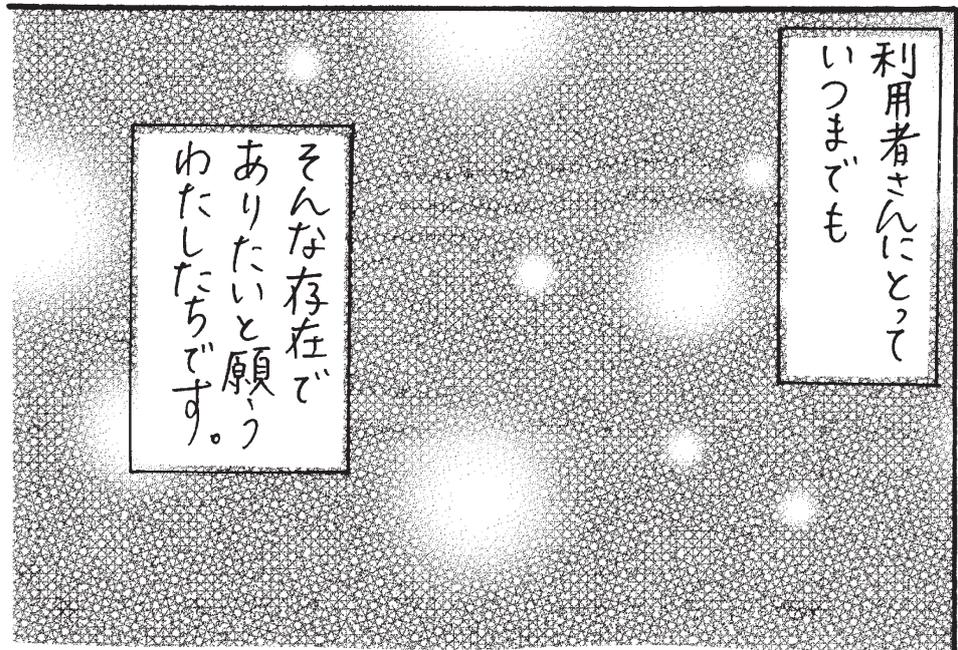
え?



また、  
ある日の夕方

Hiさん  
こんにちは!

お弁当持って  
来ましたよ!



そんな存在で  
ありたいと願う  
わたしたちです。

利用者さんにとって  
いつまでも



...そうですか。